

2020.02.02.聖書預言アップデート  
トランプ大統領の和平案内容 聖書預言の成就  
JD ファラグ牧師

では、始めましょう。木曜日、私はテサロニケの人への手紙第一を先に済ませる事にしました。そのため、今日は火曜日に発表された、トランプ大統領の”平和案”を取り上げることに捧げます。また、今日は特別な日です。第一日曜日で、皆さん、私がスーパーボウルについて何か言おうとしていると思ってますね。わお〜。大丈夫ですよ。私は今週の日曜日がスーパーボウルだということを木曜日まで知りませんでした。誰が出ているのかも知りません。だから、もっと外に出ないといけないのかも知れませんが、なぜ今日が特別な日なのかというと、2005年2月の第1日曜日、最初の日曜朝の礼拝を開始したからで、今日は、私たちの15年周年の記念日です。一拍手喝采—そう、神がなさられたことを見てください。これは神にしかお出来にならないことで、このことで、神が全ての栄光を手にもされるのです。だから、今日は急ぎたくなかったんです。このことの重要性を見るために、非常に必要な時間を費やしたいと思います。そのことがこれを保証すると思います。ですから今日は、また、オンライン教会の方のために、聖餐式は別動画でアップし、礼拝は別にアップロードします。そしてその様子は私たちのYouTubeチャンネルでご覧いただけます。私たちは、世界中に約3,000人もの人々がいて、教会全体として、オンラインで共に聖餐式のテーブルにあたります。それって何と素敵なのでしょう。では、とにかく本題に入りましょう。私は今日のために多くの祈りを捧げましたが、決して私の言葉を鵜呑みにしないよう願います。その意味を説明します。私が今日言うことが真実かどうかを、皆さんが、ご自分で聖書を調べられるのをお勧めします。「使徒の働き 17章 11節」です。

### 使徒の働き 17章

**11 この町のユダヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも素直で、(その理由がこれです。)非常に熱心にもことばを受け入れ、はたして (パウロが語る事が) そのとおりかどうか、毎日聖書を調べた。**

神は私たちに知性を与えてくださっています。神から与えられた知性を使わないとき、私たちは大きな過ちを犯すと思います。この知性は、私たちに与えられている驚くべき頭脳の事です。ですから皆さんぜひ、ご自分で聖書を調べ、これが本当かどうかを確かめてください。そのために、誰かの意見を参考にする必要はありません。よろしければ、この計画に関するいくつかの質問に、お答えし、さらに、こんにちの私たちにとってどんな意味があるのかを考えてみたいと思います。これはとても重要で意義があります。ついに火曜日に発表されたこの平和案が預言的に重要な意味を持つということを、いくら強調しても過言ではないと思っています。皆さんが私同様なら、そうだと思いますが、大変興奮されたと思います。特に先週の日曜日、速報が出た時、あまりにも良すぎると感じました。もしかしたら、こんなことを聞いたことがあるかもしれません。"本当の事があまりにも良すぎる場合、それはおそらく、本当の事としては良すぎるからでしょう。"実際にその覆いの中を覗いてみて、それを実感しました。いわば、このことの中身を見てみたのです。

水曜日に、181ページに渡るその計画案をダウンロードし、祈りを込めて丁寧に読みました。その複雑なものすべてを整理するためにです。大変複雑ですが、教会の兄弟にも手伝ってもらって、全てのチャート、全てのグラフ、地図、数字、要点を見ました。残り少ない私の髪の毛が痛むほどでした。それほど強烈だったのです。しかし、私はそれを乗り越えました。水曜日から時間をかけて、それを乗り越えまし

た。私はまず、2つの結論を共有し、2つの質問に答えることから始めたいと思います。ここでは方向変え、「なぜこのことが重要なのか」に注目したいと思います。誤解しないようにしてください。これは本当に、こんにちのあなたにとって、私にとって、私たちにとって本当に重要です。繰り返しになりますが、これがこんにちの私たちにとって、何を意味するのか、その重要性和意義を、強調する事はできないと思います。そのためには、前置きが長くなってしまいましたが、ここでは "速報" と呼ぶことにします。5つの大変重要な速報です。第一に、パレスチナ人というものは存在しません。そのため、パレスチナ国家というものは存在しません。私は、パレスチナ人だと言われて育ちました。イエス・キリストについての救いの知識を得て、自分で聖書を調べるようになってから、アラブ人としての自分の遺産や文化について、少しずつ学んでいきました。パレスチナ人が存在しないのは ペリシテ人、つまりパレスチナ人がもういないからです。なぜパレスチナという名前があるかという、紀元 2 世紀、ローマがイスラエルを征服し、エルサレムを破壊したのが西暦 70 年でした。彼らはそれを、イスラエルの宿敵ペリシテ人にちなんで、「ペリシテ」と名付けました。それが、パレスチナという名前がついた理由です。約 2,000 年の間、1948 年 5 月 14 日までパレスチナと呼ばれていました。「では牧師さん、あの人々は誰のですか？」彼らはアラブ人です。パレスチナ人ではありません。パレスチナ全容を捏造したのがヤセル・アラファトで、彼はエジプト人です。エジプト人です。パレスチナ人は存在しません。ですから、パレスチナという国家は存在しません。第二に、いわゆるパレスチナ人と呼ばれる人たちは、イスラエルとの共存には全く関心がありません。彼らが求めているのは、イスラエルの完全崩壊です。この証拠として、歴史を見れば一目瞭然です。実は、それほど遡る必要はありません。2000 年 7 月まで遡ればいいのです。当時のイスラエル首相、エフード・バラクは、ヤセル・アラファトに神殿の丘の主権だけでなく、エルサレム旧市街の 75% を提供したのです。都市の、四分之三をです。アラファトの反応は？「ありがとう。やっと中東の平和が実現します！」いいえ。そんな反応ではありませんでした。どんな反応だったかご存知ですか？彼は、ビル・クリントン大統領（当時）との会談を突然抜け出し、血みどろの悍ましいアル・アクサ・インテリファダを開始しました。蜂起。これは覚えていますでしょうか？ あのバスの中で爆弾事件が起きたことを。その結果、アラブ人 3,000 人以上、ユダヤ人 1,000 人以上の犠牲者を出しました。それが彼らの反応です。今日は主に、私の気を和らげてくださるようお願いしました。これについて感情的になりたくないのです。ですからご辛抱ください。

速報その 3: いわゆるパレスチナ人は、2000 年に、エルサレムの 75% を拒否しただけではなく、1937 年に始まったパレスチナ国家を拒否しました。繰り返しますが、私の言葉を鵜呑みにしないでください。彼らは、彼ら自身の国家を拒否し続けたのです。それは、彼らがパレスチナの国家に全く興味がないという証拠です。彼らはイスラエルとの共存を望んでいるのではなく、イスラエルの崩壊を望んでいます。4 つ目。これは非常に重要です。どれも重要ですが、特にこれは重要です。すぐに理由は分かると思います。イスラム教の主張は、エルサレムは聖地であり、具体的には、神殿の丘にあるアル・アクサが、イスラム教という宗教が偽物である通りに、非合法的なものとして主張しています。できるだけはっきりと言いましょ。アッラーは、偽の神です。イスラム教は、偽の宗教であり、モハメッドは、偽の預言者です。5 つ目。最後になります。エルサレムは今も昔も、合法的に、イスラエルの永遠の首都です。そこに、所有権である神の御名が文字通り、合法的にあります。画面にスライドをお出しします。オンラインの方には、全画面で出します。これは、38 ページのスクリーンショットです。これをお見せして、「正当性」という言葉を強調している理由を説明したいと思います。「正当性」です。第 21 項の「主張と紛争の終結」

というタイトルに注目してください。これが内容であり、引用します。"イスラエル・パレスチナ和平合意"は、イスラエル人とパレスチナ人の紛争を終結させる。そして、当事者間のすべての主張を終わらせる。"主張の終了、紛争の終了。へ～そうなんですか？ また多くの皆さんと同様に、これらの予備報告を受け始めた時、「エルサレムは、イスラエルの分割されない首都であり続ける！」と確信しています。つまり、それはとても親イスラエ尔的だったんです。ただ「おおっ、よかった！」と思いました。そして、現実を突きつけられました。基本的には、神が私を確認され、止めてくださって、こう仰ったと言うべきでしょう。「あなたは何を考えていたのですか？」「トランプ大統領がこの和平案を発表して、一国解決になるとでも思っているのですか？」「イスラエルの永遠の首都であるエルサレムは分割されずに残るとでも？」パレスチナ人は"わかった"と言って、そしてパレスチナに戻る。ちなみにヨルダンにあります。なぜ皆さん、そんな風に私を見ているのですか？ そして私たちは、いつまでも幸せに暮らすことができる。自分でも"そういうことか"と思いましたね。つまり、トランプ大統領は、イスラエルのために、クリスチャンのために、これだけのことをしてきたのだと。その時、神が私を確認され、こう仰いました。「客観的に見られるように、その計画案からその人物を外しなさい。」なぜそう言うのかを説明します。トランプ大統領は、親イスラエル・親クリスチャン、全ての事をしてきました。そして彼は、この計画案を発表する。皆さんトランプ大統領がお好きです。トランプ大統領が好きだから、この計画案を好きになりたい。それが私の言わなければならないことです。「ちょっと待ってください。彼の名前を消しましょう。」ところで、ジャレッド・クシュナーの名前があちこちに出てきているので、それほど難しいことではありません。私がこの和平案から、人物の名前を消した時、客観性をゆがめることなく、はっきりと見ることができました。トランプ大統領が行ったすべての良いことのおかげです。それらは良いのです。しかしこれは良くありません。事実、これは大変悪いことです。またはこう言います。「大変悪い、大変大変悪い。」(中東発音) いいでしょう。これが1つ目の結論になります。これはやはり二国家間解決策です。ここでは、その計画案の一部をご紹介します。17 ページから引用します。"エルサレムは、イスラエル国家の主権的首都であり続け、分割されない都市であり続けるべきである。"主を褒めたたえます。それでいいと思います。それだけでは終わりません。引用続けます。

"パレスチナ国家の主権的な首都は、東エルサレムで、既存の防壁の東側と北側の全地域に位置する東エルサレムに主権的首都を置くべきである。

米国は、イスラエルとパレスチナをそれぞれの首都で承認する。

また、他国に対しても、必要に応じて大使館をエルサレムとアル・クッズに移転する事を奨励。"

アル・クッズとは？ 厳密には、アラビア語の単語で、エルサレムではなく、エルサレムを指す言葉です。しかしそれ以上の意味があるとも考えられています。エルサレムからアル・クッズに相対し、ユダヤ人を根絶やしにするという意味です。それについては、もう少し後に説明します。

ここで、2つ目の結論です。そしてこれは、言ってみれば「ディールブレイカー/取引を破壊する者」です。エルサレムにはまだ解決策がありません。むしろ、今はエルサレムが、さらに問題になっていると言ってもいいでしょう。13 ページから 17 ページまでの抜粋です。

"エルサレムは複数の宗教の聖地です。そして、人類の多くにとって宗教的な意味を持っている。エルサレムの聖地の問題。特に、神殿の丘/ハラム・アル・シャリフが、"繰り返しになりますが、イスラム教徒、アラブ人いわゆるパレスティナ人は、この場所を「神殿の丘」と呼ぶことはありません。その理由が知りたいですか？「神殿の丘」と呼ぶということは、そこに神殿があったことを意味するからです。繰り返

返しますが、なぜ皆さんそんな目で私を見るのですか？ 彼らには、そこに神殿があってはいけないのです。だから彼らは、そこに神殿があったという言及を根絶し、あらゆる参照も、排除しなければならないのです。ですから彼らは、それを「ハラム・アル・シャリフ」と呼びます。この計画は、一再度、和平案を引用中— 細心の注意を払って取り扱われるべきものだ。エルサレムは、文明歴史の中で唯一の都市だ。地球上で、3つの主要な宗教が存在する場所は他にない。ユダヤ人は毎日、西の壁で祈りを捧げる。イスラム教徒はアル・アクサ・モスクで祈りを捧げ、キリスト教徒は聖墳墓教会で礼拝する。"はい、お許してください。クリスチャンは、ある場所を崇拝するわけではありません。クリスチャンはある人を、イエス・キリストという人を礼拝します。カトリックは、クリスチャンではなく、場所を崇拝します。引用を続けます。

"イスラム教にとってエルサレムは、聖典コーランに書かれているように重要な位置を占めている。彼のしもべを聖なるモスクから、夜通し行かせた彼に栄光あれ。「アル・マスジド アル・アクサ」から最も遠いモスクまで。"アル・マスジド アル・アクサは、因みにカッコで囲ってあり、和平案はコーランを引用しています。なぜなら、それらは実際には、コーランには書かれていません。彼らはあって欲しいと思っています。"だから誰の周りに..."まだコーランを引用中です。ああ、そういえば、再度お許してくださいね。今朝、この記事をもう一度読み直しました。というのも、その多くが信じられない、ただただ驚くべきほどの不信感だったからです。私は自分の目が欺かれていないかどうかを確認するため、もう一度やり直しました。実は、検索してみました。これはPDFファイルなので、皆さんもダウンロードできます。この和平案 181 ページのPDFファイルをダウンロードして、ご自身でお読みいただけます。だから、私は全部見直しました。そして、どんなアプリを使っているかによりますが、検索できます。PDFファイルを検索することができます。そこで「聖書」という言葉を検索してみました。聖書からの参照や引用があるかどうかを確認したかったからです。でもありませんでした。ほ～でもコーランから引用しているのですか？ はいそうです。そして、全 181 ページの中で「聖書」という言葉を見つけられる唯一の場所は、ヘブライ語の聖書のことでした。ああ、なんということでしょう。私がこれを理解しているかどうか見てみましょう。ヘブライ語聖書は 聖典コーランとは対照的です。「ああ、JD 牧師。批判的すぎですよ。」はい、そうかも知れません。でも、すみません。あ～落ち着いて…。イスラム教徒のエルサレムに対する不法な主張を正当化するために、"聖なるコーラン"を引用しています。エルサレムが聖地だというイスラム教の主張に少しでも近づける唯一の聖句を引用しています。しかし事實は、コーランにはエルサレムという言葉はなく、一度も出てきません。ムスリム（イスラム教徒）は「ああ、違います。ここにありません。」と言います。そうではないのに。そうではないのです。すみません、叫んでしまいました。エルサレムという言葉が聖書の中で何度出てくるのかを知っていますか？ 700回以上、800回近くだと反論している人もいます。控えめに見ても最低 700回は、参照していることになりますよね。ヘブライ語聖書の中で。はい、ヘブライ語聖書の中で。そのため、この和平案、繰り返しになりますが、自分で読んでみてください。私の言葉を鵜呑みにしないでください。引用してみましょう。引用します。"イスラムの伝統によれば、"さっき読んだコーランの節からの引用です。"預言者モハメッドのメッカからエルサレムへの夜行性の旅のことである。彼は、神殿の丘／ハラム・アル・シャリフ地域に到着し、そこで天に昇り、先人の預言者たちに会い祈りの戒めを受ける。" いいでしょう。ですから、ご存知ですか？ ところで、この間合いは？ それは私が聖霊と格闘しています。「それを言うべきです。」「いいえ言いたくありません。」「いいえ言うのです。」「分かりました。言います。」では、今言いますよ～。

イスラム教で、救世主マハディが再臨し、イエスも一緒にやってくると信じられていることを知っていますか？ そして、イエスが彼のために祈りを導く？ 私は彼らが話しているイエスが何のことだかわかりません。それは私のイエスではありません。違います。再度、聖霊が私にそう言うように導いていると信じるので言います。不条理、不条理が浮かびます。「バカバカしい」という言葉でさえ、不十分です。よろしい。方向を変えて、2つの疑問に答えましょう。1つ目。これは、ダニエル書の預言にある和平案であるかどうかです。具体的には、ダニエル書9章27節です。その預言を読んでみます。

「彼（反キリスト）は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、（この言葉を覚えておいてください）半週の間、いけにえとささげ物をやめさせる。忌まわしいものの翼の上に、荒らす者が現れる。そしてついには、定められた破滅が、荒らす者の上に降りかかる。」（ダニエル9：27）

つまりこれは、反キリストが7年間の和平協定を固めるという預言です。これは初期段階で、または和平協定の一部として、ユダヤ人が神殿の再建が認められることを示しているようです。なぜなら、3年半という中間点で神殿があって、この反キリストが神殿に身を置き、崇拜するよう要求するからです。第二テサロニケ人への手紙にも出てきますが、彼は自分を神として崇めることを要求します。そして彼は、多くの人が忌まわしい行為だと信じている事を、すなわち、汚れた動物を、神殿で捧げものにします。それが荒廃を引き起こします。それが忌まわしい荒廃です。これが、彼は自分たちの救世主ではないとユダヤ人が気が付く時です。そして神が、7年間の患難時代後半、ユダヤ人を守られるためにご用意された、私が信じる現代のヨルダンのペトラへ逃げます。ユダヤ人が主を呼び求めます。そしてイエスが再臨される時、彼の花嫁である私たちは、患難時代の終わりに彼と共に一緒に来るのです。ですから、この預言は、大変具体的で大変詳細まで記されています。

尋ねなければならない質問：トランプ大統領が火曜日に発表したこの和平案は、ダニエル9章27節の預言、和平案なのか？ 答え：はい。またはいいえ。もしくは、まだ。この答え、お好きですか？ 最善ものです。いいですか？ さて、なぜそのように言うのかを説明しましょう。何も合意されていません。何も確認されていません。さらに、ダニエルの預言には、多くの人が同意するであろう、合計7年間という時間軸に関する具体的な記述があります。私は個人的に、この計画案は、反キリストが誰であろうと、後に契約を固めるため、すでに実施されているのではないかと考えています。その意味は、ヘブライ語聖書の原語で確認した言葉。旧約聖書です。実は私の母国語のアラビア語と同じ単語で、「ヘクビール」です。より偉大に、より優れた、さらに壮大にという考えが含まれています。言い換えれば、反キリストは、既にテーブル上にある和平案を、“より壮大に・より偉大に・より優れた”ものにします。その意味するところは、彼がそれを実行するために、計画案がなくてはならないということです。こんな風です。私があなたと約束があれば、私のアシスタントが多分、あなたに確認のためのリマインダーとしてメールを送ります。つまり、もう決まっている。すでに存在していてあとはそれを確認するだけです。今回の計画案もそうです。だから、はい であり いいえでもあります。ダニエル9:27の和平案ではありません。なんということ！もしそうだったら？ もしそうなら第一に、私たちはここにいません。反キリストが現われる前に、教会が取り除かれなければなりません。そのこと（和平案）を確認するのが反キリストなのです。聞いてください。私は愛情を込めて、そしてもちろんユーモアを持って言います。もしあなたがここにいて、朝ニュースの新着を見て、7年間の和平協定が固められたと聞いたら？ あなたは携挙されなかったということです。他にどう言えばいいのかわかりません。あなたが携挙されないなんて、ここにいない方がいいです。なんということでしょう。今更ながら。オーケー。とにかく、主よ、ちょっとした軽

さを感謝します。ちょっとしたユーモアで気分を明るくしてくれます。次は 2 つ目の質問です。これはデカイです。これは、ゼカリヤ書の預言成就なののでしょうか？ ゼカリヤ書 12 章 1～3 節を読ませてください。

「宣告。イスラエルについての主のことば。天を張り、地の基を定め、人の霊をそのうちに造られた方、主の告げられたことば。」(ゼカリヤ 12:1)

「『見よ。わたしはエルサレムを、その周りのあらゆる民をよろめかせる杯とする。エルサレムが包囲される時、ユダについてもそうなる。』(ゼカリヤ 12:2)

「その日、わたしはエルサレムを、どの民にとっても重い石とする。すべてそれを担ぐ者は、身にひどい傷を受ける。地のすべての国々は、それに向かって集まって来る。」(ゼカリヤ 12:3)

これは、エルサレムの分割について具体的に書かれている預言です。質問に戻ります。これは、エルサレムを分断する計画案なのか？ 答え：はい、またはいいえ。もしくは、まだそうではない。再度、その理由を説明します。繰り返しますが、何も固められておらず、まだ同意されていません。しかし私にとって、トランプ大統領の計画案は、エルサレムを分断するように思えます。「牧師さん、ちょっと待ってください。私はこう聞いてますよ。”エルサレムは、イスラエルの永遠の首都である”」いいでしょう。彼が彼らに与えているエルサレムの一部は、エルサレムとは考えられていません。「それって、彼が言っているのは、ただ...。」オーケー。宜しければ神の御言葉に戻りましょう。不動の岩である境界石を動かそうとする者は、誰であっても、「私が彼らを動かします。あなたはエルサレムを分割したいのですか？ 私があなたを分割します。」ある翻訳でもう少し生々しいです。「あなたがエルサレムを切り刻むなら、私あなたが切り刻みます。」いかがでしょうか。JDV (JD 牧師) 訳です。それが基本的に神の言われていることです。「見よ。わたしはエルサレムを、その周りのあらゆる民をよろめかせる杯とする。」世界中が、執着するのは为什么呢？ エルサレムを分断することに、です。「全ての都市の中で、私が名前を置くため選んだ一つの都市。私の所有権の名前です。それは”私の都市”です。」「あなたには、その境界線となる石、重荷となる石、不動の石を動かすことはできません。」それは震撼する杯です。執着させ、よろめかせる杯。

では、テーブルの上にある質問に戻りましょう。これはエルサレムを分断するのか？ いずれ分かるでしょう。時間が解決してくれる。どういう意味ですか？ あ～この預言によれば、エルサレムを分断しようとする者は、自分自身も分断されるということに、皆さん同意されますか？ 同意できますか？ 同意いただけるなら、私の言うことをお聞きください。そして、できる限りはっきりと、また愛情を込めて、アメリカ大統領に敬意を表して言います。もしこれが、トランプ大統領のお考えなら、私たちは、アメリカの分断を目にするでしょう。う～ん。う～ん。私は、列王記上 3 章の魅力的な記述を思い出しました。私にとって、聖書の中で最も興味をそそられる記録の 1 つです。それは神が、ソロモンの前に現れ仰います。

「ソロモンよ、お前の望むものは何でも与えよう。ただ言ってみなさい。」(列王記 第一 3:5 参照) 因みにそれは、こんにちの私たちの為です。

「私の名で求めるなら、何でも与えられます。それが私の御心と栄光に適うならば、求めなさい。何でも与えられます。」(ヨハネ 14:3 参照)

それで、主はソロモンに現れます。ソロモンは今まさに、自分の正当な地位、イスラエルの王です。そして、彼は何をすべきかわからないのです。彼はまた、これは非常にゆるい言い方ですが、彼はこんな感じ

です。「神様、私はどうすればいいのか全くわかりません。私には分からないのです。王座に正しく歩み寄る方法さえ知らないのです。いったいどうやって、あなたの民を導けばいいのか、まったくわかりません。」「どうか私に知恵をお与えください。」神はこんな風です。「ほ～。正しい答えだ。正しい答えです。」「なぜならあなたは、富を願わなかったからです。」「また、敵のいのちさえ願わなかったからです。私だったら願ったでしょう。頼みますよ。皆さんも願ったはずですよ。笑わないで～ 私は何でも願っていいのです？ はい。お～それなら、私を億万長者にしてください。ちょっとそれは置いておきましょう。」「私は...復讐は主がなさることだとおっしゃいます。主よ、正義を貫いてください。」ソロモンはそれを求めません。「あなたが願う事をなんでも叶えるというのに、あなたは願わなかった。」「しかし私は、あなたに知恵を、あなたが願わなかった事も付随して与えよう。かつて今後も、あなたに並ぶ者は一人もいない。」(列王記第一 3:12~13 参照) 皆さん、ソロモンの最初の知恵が何だったかご存知ですか？ 大変魅力的です。自分のところに来た二人の女性を裁くという、非常に難しく、あえて言えば混乱した一件が彼にもたらされました。二人はこの男児に権利を主張しているのです。この生きている方の息子に。何が起こったのでしょうか。ある夜、二人とも息子と一緒に寝ていて、夜中に一人の方の息子が死んでしまったのです。そこで死んだ息子の母親は、死んだ息子を取り、もう一人の女性のところに行き、子どもを入れ替えました。ちなみに、これは実話です。これは実話に「基づいた」ものではありません。実話なんです。実際に起こったことです。そこで彼女は、自分の子ではない生きている子どもを奪い、そして死んだ息子を...。そしてもう一方の母親は、朝起きて見ると自分の子どもが死んでいる。「え！なんてことでしょう！！」しかしよく見ると、ちょっと待って、自分の息子ではない。それで両方の母親が主張します。「この子は私の子。」「いやこの子は私の子。」それでソロモン王はどうするのでしょうか？ 彼女らは、それぞれ自分の子だと主張しています。ソロモン王は言います。「よろしい。私は何をすべきか分かっている。主よ、あなただけがお与え下される英知をありがとうございます。」王が、『剣をここに持って来なさい』と言った(列王記第一 3:24) 一体何をするのでしょうか。「剣を持って来なさい。こうします。彼女らは、双方が自分の子だと主張している。生きている子を二つに切り分けなさい。」二国家間解決策です。二人の子どもの解決策です。分かりますか？ いわゆるパレスチナ人が「違う、我々のものだ」と主張しているのです。イスラエル、ユダヤ人は、「違う、我々のものだ。」と主張します。よろしい、では、誰もが幸せに、皆でハグできるようにしよう。(笑) 切り分けましょう、と。(列王記第一) 3章26節をお聞きください。

「すると生きている子の母親(実の母親)は、自分の子を哀れに思って胸が熱くなり、王に申し立てて言った。『わが君、お願いです。どうか、その生きている子をあの女にお与えください。決してその子を殺さないでください。』しかしもう一人の女は、

『それを私のものにも、あなたのものにもしないで、断ち切ってください』と言った。」(列王記第一 3:26)

これって私だけでしょうか？それとも、こんにち、まさに起こっていることではないでしょうか？

「ああどうぞ、分割してください。」あ、ソロモンが何をするか知っていますか？ ああ...ハリウッドどころではありません。私は何の話をしているんだろう？ もし私が...1億円を手に入れたら、まず最初にやることは、いや、それとは全然別のことですが、建物を建てて、いろいろなことをやって、素晴らしいものにして、それからこれを題材にした映画を制作します。なぜならソロモン王は、実の母親がこう言うのを目にするのです。「お願いです。どうかどうか切り分けしないでください。その子を殺さないでくださ

い。」もう一方の自分が母親だと主張している女は、「どうぞ断ち切ってください」と言います。ソロモン王は言います。「そちらは母親ではない。彼女の主張は違法である。」

「生きている子を初めのほうの女に与えよ。決してその子を殺して（切り分けて）はならない。彼女がその子の母親である。」（列王記第一 3：27）

ところで、座席に辛うじて座っておられる皆様へ。ネタバレですが、彼は赤ちゃんを切り分けません。よろしいですか？ ご存知の通りです。で、どうなったのか？ 彼は切り分けず、正当な権利を持っている実の母親に赤ちゃんを与えました。私は何をしようとしているのか、わかりますか？ 私にとって、アラブ人、いわゆるパレスチナ人として、自分が理解しなければならなかったことの一つは、ユダヤ人は神に選ばれた人々であるということです。神は、ユダヤ人と契約しておられ、ユダヤ人を見捨てておられません。同様に、神は、私とも、皆さんとも、契約しておられます。私はここで賢ぶるつもりはありませんが、こう考えてみてください。神がユダヤ人と共におられるなら、皆さんどれほど安心していられるでしょうか。神は、皆さんとも私とも契約しておられるからです。もしもそれが永遠の契約でないなら、因みに繰り返しますが、別のネタバレです。永遠の契約は、いつまでも永久です。永遠に続く契約なのです。神のユダヤ人との契約が永遠に続くものなら、私たちとの契約も永遠に続くものなのです。つまり、あなたも私も、神がユダヤ人と離れられるを望んでいないのです。何が面白いかがご存知ですか？ 娘と一緒に「創世記」を読んでいるのですが、飽きることはありません。彼らは私の人々だからです。神は、大変明確に私の人々を祝福されます。なんということでしょう。神はアラブ人を祝福されます。神はアラブ人を愛しておられます。神は、いわゆるパレスチナ人を愛しておられます。しかし核心は、あの土地は、ユダヤ人のものなのです。神のご計画の一部です。神がイスラエルと結ばれた土地のご契約の一部なのです。ところで、ちょっとした余談ですが、補足的に言わせてもらおうと、ここで私たちは神が私たちに与えておられる知性を使って、理性を働かせる必要があります。これは理性的ですが、最近、地図を見たことがありますか？ 最近、地図を見られましたか？ つまり、私は地図を見ていたのです。というのも、この計画案には、パレスチナ国家、イスラエル国家の分割案の地図が載っているからです。こっちにエルサレム、あっちにエルサレム、何でも構いませんが。さて、より良い方法で説明するにはどうすればいいのでしょうか？ そうですね、私の指をご覧ください。仮に、爪の上からこの関節までがイスラエルだとします。それがイスラエルの大きさです。アラブの土地は、アラブ人が所有する土地は、比較すると、この指がイスラエルです。お～、この壇上全部ですね。そうなんです。地図を見てみてください。これは、土地の問題ではありません。エルサレムの問題なのです。イスラエルを崩壊させるためです。それが事の真相です。ところで、「最後に」と言うのに気が進みませんが、それって普通の「最後に」ではないので、でも、「最後に一つ」です。「創世記」の初めから、これは、サタンがずっとやろうとしていたことで、彼はそれを続けていくでしょうし、今でさえ、彼はしようとしています。その始まりは、カインがアベルを殺害し、ユダヤ人になるとわかっていたものを排除しようとしたことです。私の言いたいことは、こうです。創世記3章15節に書かれている「原福音」とは、蛇であるサタンが、救い主イエスのかかとを打ち、救い主イエスが、蛇であるサタンの頭を打つ、というものです。ここが要点です。女の種。女性には種はなく、卵があります。男性に種があります。それは、世の救い主は、ユダヤ人の種から、処女で誕生するという預言です。サタンはこんな風です。「そんなことがあってはならない。彼に私の頭を打たれては困る」と。そのため、彼は歴史の中で、メシヤ到来を阻止しようと、ユダヤ人を抹殺しようとしてきました。そして失敗しました。そして、彼はファラオに憑き、ヘブライ人の少年たちをナイル川に投げ込ん

で死なせようとした。モーセは救われます。イエス・キリストの子型です。排除することはできません。ドラマティックな記述の一つで、ハリウッド映画顔負けです。エステル記について話しましょう。私たちは、「エステル記」を学び終えましたね。聖書の中で最も魅力的な書の1つです。全ての聖書の書に、私がそう言っているのは分かっています。でもとても面白いのが、ハマンは憑依され、私は、サタン自身だと信じていますが、彼は王にヘブライ人を絶滅させる勅令を出させます。彼は、イエスの初臨を阻止しようとし、そして失敗します。新約聖書に飛んでみましょう。ヘロデ王は虐殺します。つまり悪魔のように、2歳以下のユダヤ人の男の子をすべて虐殺します。そして失敗します。前世紀の第二次世界大戦のホロコーストについて娘は勉強しています。なんということでしょう。ちなみにもう学校では教えていません。私たちがホームスクールで教えているので、娘はそれについて学んでいるのです。私が信じるのは、このヒトラーは、サタン自身に憑依されていて、生きているユダヤ人を一人残らず絶滅させようとしているのです。そして失敗します。そして、7年間の患難時代に、反キリストが再び試みます。そして彼は失敗します。というのは、ある程度うまく行ったとしても、必ず失敗します。彼が阻止しようとしたのは、キリストの初臨だけでなく、後のキリストの再臨をもです。それが理由なのです。それが背後にある事の理由です。いいでしょう。ここで質問です。これで締めくくります。なぜこれが問題なのでしょう。か。「というか、牧師さん、正直言って私は今日この教会に来ました。オンラインで見えています。なぜなら、私は今日、本当に傷ついているからです。そして、困難な試練を経験して、本当に苦しんでいます。私の頭の中から一番関係ないのが、大統領の平和案です。」「一体どうしたのですか？ 私は励ましがほしいのです。」お～ 嬉しいです。なぜならこれは大変な励みだからです。「牧師さん、気が狂ったのですか？」まあ、それは議論の余地があるかもしれませんが、しかし、そうではありません。どう励まされたのですか？ その理由は、これらのことは、終わりの時に実現しなければなりません。その意味が分かりますか？ このことが、あなたと私にとってどのような意味を持つのか、ご存知ですか？ 私たちはこれだけ近づいているのです。なんということでしょう。私はこのことを探していました。私が考えているのは、主よ、ありがとうございます。その時、何が起こるかを正確に教えてくださって、本当に感謝します。このことが起こっている。つまりそれを表すのはただ一つ！ あなたが来られる。私たちをこの世界から連れ出すために来られる。待ちきれません。この世界は私の家ではありません。つまり、この世の苦しみ？この人生は、待ち受ける栄光とは比べ物になりません。もうそんなに長く待つ必要はありません！ 失礼しました。私は叫んでます。しかしそれがアラブ人です。私たちは叫びます。－（笑）－ ちょっとお待ちください。皆さん、ワクワクされますよね？「私はワクワクせず、怖いです。」「ワクワクどころか、怯えています。」これは、多くの恐れ、不安をもたらします。それがあなたに、またはオンラインでご覧の方に、どんな意味を持つかわかりますか？ それはあなたが、主と正しい関係ではないということを示しています。もし主と正しい関係なら、あなたは主を迎える準備ができていてワクワクするでしょうから。ですから、これがあなたにとって本当に重要な理由です。主と正しい関係になる必要があるからです。今日が救いの日です。他に何が必要なかわかりません。神はすべての人に、手遅れになる前に最後まで機会を与えたいと思われているのを私は心から信じています。

（神は）**だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。**

**（第二ペテロ 3:9）**

キリストの元へ来ることを。これらを神が、つまり、時が迫っていることへの警告のライト、サイン。もう時間がありません。時が迫っていて、遅れないように、遅れないように、遅れないように。今日ここ

に來られている方、またはオンラインでご覧の方に。私がシンプルに皆さんに言いたいのは、今日の世界で見られるすべてのものは、1つの言葉を表します。”携挙”です。イエス・キリストの教会携挙は、もういつでも起こり得ます。聖書預言にある携挙の時に、世界がどのようにになっているかという記述は、まさに現在の世の様子であり、それはこんにち携挙が起こりうることを意味しています。それほど私たちは近づいているのです。まだ間に合います。遅すぎることはありません。いずれ遅すぎる時が来るのです。今が手遅れになる前の時です。だからこそ、私たちはこの預言・アップデートを行い、イエスが來られる警鐘を鳴らすのです。時が迫り、終わりが近づきました。まただからこそ、私たちは、イエス・キリストの福音、救いの良い知らせ、「救いのABC」という子どもにでも分かる救いの簡単な説明で締めくくるのです。福音/ゴスペルとは何でしょうか。福音とは、イエスが（地上に）來られ、十字架にかけられ、葬られ、3日目によみがえられた。そして、彼はいつか戻って來られる。それが良い知らせ・福音です。「救いのABC」とは何でしょうか。

A：自分が神に背いた罪びとであるのを、また自分には救い主が必要であると Admit/認める または、Acknowledge/認識する。ローマ人への手紙 3章 10節にこう書かれています。

「義人（正しい者）はいない。一人もない。」

言い換えれば、あなたは良い人かもしれませんが、十分良くはありません。ローマ人への手紙 3章 23節がその理由を教えています。

「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、」

私たちは皆、罪を犯しています。そして今私たちは、神の完全な義の基準を破るといふ、的外れな罪のせいで、罰則を受けなければなりません。その罰則が何かご存知ですか？ 死刑宣告です。

ローマ人への手紙 6章 23節

「罪の報酬は死です。」（ローマ 6:23a）

誰しもが罪びとなので、私たちは生まれながらにして罪びとなのです。ですから新生しなければならないのです。

「罪の報酬は死です。しかし、神の賜物は私たちの主キリスト・イエスによる永遠の命です。」

（ローマ 6:23）

イエスが十字架上で、全てを懸けて完全に支払ってくださった贈り物なのです。それがA、次がBです。

B：あなたの心で、イエス・キリストが主であると 神がイエスを死からよみがえらせたことを、Believe/信じる。ローマ人への手紙 10章 9-10節、

「あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。」

（ローマ 10:9）

そして最後に、Cです。C：主の御名を Call/呼び求める、Confess/告白する。また再度、ローマ人への手紙 10章 9-10節、

「あなたの口でイエスは主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。」（ローマ 10:9）

そしてこれがその理由です。

「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」（ローマ 10：10）

最後に、ローマ人への手紙 10章 13節、決定打です。

『主の御名を呼び求める者はみな救われる。』（ローマ 10：13）

それほどシンプルで、祈りを捧げるだけです。口で告白し、心で信じ、自分の罪を認め、赦しのために彼に信頼するのです。ご起立ください。賛美チームは上がってきてください。もし、聖餐式に残られるのであれば、ぜひともそうしていただきたいと思います。もうあと10分程度、長くても10~15分程度でしょうか。帰らなければならない方は、神の祝福がありますように。ところで、もう帰られる方、もし火曜夜の祈祷会にお越しください。お伝えしておきます。もし火曜夜にご予定がある場合はキャンセルして、火曜夜7時にいらしてください。ー(笑)ー 祈りで締めくくりたいと思います。ただ、聖霊に私たちの心を探って頂きたいと思います。主を知り、主と共に歩んできた私たちにとって、主が私たちの心を探って、私たちを主から遠ざけているものがないかどうかを確認いただく必要があるのかもしれない。かつてないこの人類歴史の最後の時間に、私たちは主に近づかなければなりません。遊んでいないで、神のことを真剣に考えなければなりません。今日ここにいるどなたか、またはオンラインでご覧のどなたかへの言葉かもしれません。主が来ようとされています。それは私たちの誰もが想像するより間近に迫っています。祈りましょう。

お父様ありがとうございます。感謝します。福音のシンプルさをありがとうございます。聖書預言に感謝します。それが起こる前に、何が起こるのか教えて下さり感謝します。

「これらのことが起こり始めたら、(信者は)身を起こし、頭を上げなさい。あなたがたの贖いが近づいているからです。」(ルカ 21:28)

そして未信者は、時が迫っているという現実を目覚めるのです。主よ、私が牧師として特権に与るこの素晴らしい教会におられる方や、またオンラインでご覧の方で、あなたを呼び求めたことのない方が、口で告白し、心で信じ、罪を認め、罪の赦しのためにイエスに立ち返るよう祈ります。今日が彼らの救いの日でありますように。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7